

## はしがき

本報告書は、平成 21 年度に当研究所において実施した「イラン情勢」研究会の研究成果を取りまとめたものです。

2009 年の大統領選挙以降、イラン国内では改革派を中心とする抗議デモが頻発するなど、その政治情勢に対して世界的な注目が集まっています。また、イラン情勢は同国内のみでとどまる性質のものではなく、中東地域、さらには国際政治にまで影響を及ぼすものです。周知のように、イランの進める核開発は国際社会が直面する重要課題であり、イラク・湾岸諸国・レバノンなど周辺国に対するイランの影響力伸張は顕著です。日々変化する中東の国際政治の中で、イラン情勢に関する更なる研究の発展が急務になっているといえるでしょう。そこで、本研究会では、昨今のイラン情勢を踏まえ、同国内政・外交政策に関する詳細な考察を行うこととし、そしてイラン情勢が中東地域・国際政治に及ぼす影響について総合的に論究することを目的に、研究を実施しました。

なお、ここに表明されている見解は全て各執筆者のものであり、当研究所の意見を代表するものではありません。

最後に、本研究に終始積極的に取り組まれ、本報告書の作成にご尽力をいただいた執筆者各位、その過程でご協力いただいた関係各位に対し、改めて深甚なる謝意を表します。

平成 22 年 3 月

財団法人 日本国際問題研究所  
理事長 野上義二

## 研究体制（敬称略）

|       |      |               |
|-------|------|---------------|
| 主査    | 山内昌之 | 東京大学大学院教授     |
| 委員    | 秋山信将 | 一橋大学准教授       |
|       | 大野元裕 | 中東調査会上席研究員    |
|       | 加藤 普 | 総合研究開発機構理事    |
|       | 佐藤秀信 | 法務省法務事務官      |
|       | 鈴木恵美 | 早稲田大学准教授      |
|       | 高岡 豊 | 上智大学研究補助員     |
|       | 立山良司 | 防衛大学校教授       |
|       | 山崎和美 | 中東調査会研究員      |
| 委員兼幹事 | 横田貴之 | 日本国際問題研究所研究員  |
| 担当助手  | 増田智子 | 日本国際問題研究所研究助手 |

## 目 次

|                      |                    |               |
|----------------------|--------------------|---------------|
| 序 章                  | イラン・イスラム政治体制の変容    | 山内昌之…………… 1   |
| 第 1 章                | 2009年大統領選挙前後のイラン内政 | 佐藤秀信…………… 7   |
| 第 2 章                | イランを取り巻く国際関係       | 山崎和美…………… 29  |
| 第 3 章                | イラク・イラン関係          | 大野元裕…………… 47  |
| 第 4 章                | ヒズブッラーとイラン・シリア     | 高岡 豊…………… 55  |
| 第 5 章                | ハマースとイランの関係        | 横田貴之…………… 71  |
| 第 6 章                | イスラエルのイラン核開発問題への対応 | 立山良司…………… 85  |
| 第 7 章                | エジプト・イラン関係悪化の諸要因   | 鈴木恵美…………… 99  |
| 第 8 章                | 湾岸地域経済におけるイラン      | 加藤 普…………… 115 |
| 第 9 章                | 米国のイラン政策           | 秋山信将…………… 159 |
| 用語解説                 |                    | 佐藤秀信…………… 177 |
| クロノロジー (イラン関連の主要な動向) |                    | …………… 191     |